

シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

さかもとほぜんかい・うわのおおみぞちくかつどうそしき
Vol.3 阪本保全会・上野大溝地区活動組織(御浜町尾呂志)の軌跡



【風伝おろしとコスモス】

——美しい里山を守り、次の世代へつなぐ——

多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡だと思つ。

本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えしている。今回は、旧尾呂志村の一角からなる御浜町尾呂志で、農業と美しい農村風景を守るために活動している2つの組織を紹介する。

熊野古道の風伝峠から1年を通じて吹き抜ける風「風伝おろし」は、御浜町の米どころである尾呂志のお米にうま味を加え、「ここでしか味わえないお米づくりを実現させている。」

阪本地区にある美しい棚田に囲まれるなか、阪本保全会の辻本さんと上野大溝地区活動組織の時田さんにお話を伺った。

——地域や組織の現状を教えてください

辻本——かつて悪いかもしれないが、現実にはこうなんだということをさらけ出し、お話しします。

農村集落である阪本地区を守るためには、地域で農業を営む環境を持続させることが重要だと思っています。私は他の人の田んぼも預かって、約6畝の田んぼで米作りをしており、そのほとんどが棚田です。地区に専業農家は2名しかおらず、日常的に田んぼに関わる人ができない人がいません。兼業農家の人が、他の人の田んぼも預かって維持していくのは、

現実的には難しいと思います。今は私が主体となって活動の旗振りをしています。私がいなくなればどうなっていくのか、1年先も見通せないような状況で、かなり危機が迫っています。

時田——上野地区も、地域の今後の見通しが立たず、緊迫した状況にあります。

地区の田んぼは区画が小さく、棚田もあります。専業農家は3名で、水路の点検など日常の維持管理業務ができる人材が少なく、平日は人が集まらないので、作業は土日にせざるを得ません。地域の多くの人が参加してほしいですが、メンバーが固定化してしまっているのが現状です。

——棚田の保全についてお聞かせください

辻本——阪本地区の棚田は、一枚の面積が10㎡程度と小さく、機械の乗り入れができません。田んぼと比べると、平地で区画が大きな田んぼと比べると、管理には大変な労力がかかります。田んぼの大きさや



棚田をまもる

誇りを胸に

地域を愛する者たち

阪本保全会 書記/会計
辻本 満哉さん

上野大溝地区活動組織 会計
時田 守さん



形は一枚一枚違うので、一様に作業できるわけではありません。それぞれの田んぼの特徴を捉え、どうすれば効率的にできるかを考え、試行錯誤しながら作業しています。これは、棚田で米作りをする私たちが持つ技術の一つだと誇りを持っています。

また、阪本地区にはフジバカマ畑があり、飛来するアサギマダラと、私たちが保全している阪本の棚田を見に、毎年多くの方がここを訪れているので、尾呂志の魅力をもっと発信できればと思っています。

——地域の学び舎である尾呂志学園(小・中学校)と連携した取組を行っているとお伺いしましたが、どのような思いで活動されていますか

時田——上野地区にある尾呂志学園では、子どもたちの豊かな心を育てるため、授業の一環として米作りを行



【阪本地区の棚田、純米大吟醸酒「風」】

——「夢アグリ」とはどういった組織なのでしょう

辻本——地域で共通の問題を抱える尾呂志の農業者同士で、「何かあつ

っています。組織として連携し、地域全体で関わる体制づくりをすることで、多くの人に取組を知ってもらえると思っています。

辻本——私は、地元農家の有志で結成されたグループ「夢アグリ」の一員として関わっています。子どもたち田んぼの持つ役割などを知ってもらうことで、田んぼを守ることの大切さや地域のことを考える良い機会になればと思っています。

たときに助け合える体制を作りたい」という思いで13年ほど前に結成しました。

取り組みのきっかけづくりとして、地域の田んぼでとれた酒米を使って、熊野市の企業と伊賀市の酒造会社とがコラボした純米大吟醸酒「風」を平成26年から作っています。

時田——「夢アグリ」のメンバーは、尾呂志にしかない地域資源を将来の世代へと継承していくという意識がとても強いです。各地区を守る多面的の活動組織と、尾呂志全体を守る「夢アグリ」で、今後も役割分担をしながら、我々の住む地域を守っていききたいと思っています。

——今後の取組について、どのように考えておられますか

辻本——地域を存続させるためには、尾呂志全体で活動に取り組む必要があると思っています。他の地区の方にも声をかけてはいるのですが、事務処理ができる人がいないなどの理由で、組織の設立には至っていません。

時田——事務処理ができる人材の確保と、目指す方向性を考えたうえで、いずれは尾呂志全体で活動を行い、地域の活性化につなげたいと思います。

■取材を終えて

お話を伺うなかで、「地域を、農業を、守らなければいけない」という強い思いが伝わる場面が多くあり、地域への熱い思いが感じられた。尾呂志では、地域のPRのため、歳時記「恋しよおろし」の発行や、HP・SNSの運営を行っており、SNSには尾呂志の美しい風景の写真が多く掲載されている。辻本さんや時田さんたちの取組は、確実に地域の資源となっており、今後多くの方の心を打つことだろう。

基本データ	組織名	組織設立年	構成員	活動面積	活動メニュー
	阪本保全会	平成29年	38名	約14ha	農地維持支払、資源向上支払(共同)
	上野大溝地区活動組織	平成31年	16名	約4ha	

取材:三重県熊野農林事務所 山口、福永(令和4年12月)
問い合わせ先:三重県熊野農林事務所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)

